

学校名 北海道札幌南高等学校(全日制)

学校関係者
学校評議員
5 名

1 学校教育目標

- 高い識見と豊かな情操を養う。
- 健全な身体と堅忍不拔の精神を養う。
- 互いに人格を尊重し社会的資性を養う。

2 スクール・ミッション

- 次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる生徒の育成
- 「堅忍不拔」「自主自律」の精神を継承し、変化の激しい新時代において、たくましく、しなやかに生き抜き、リーダーとして社会に貢献できる人材を育成する

3 年度の重点目標

ICTを効果的に活用した教育活動を推進し、本校教育の質の向上を図る。

4 自己評価結果

評価基準【A:達成している B:おおむね達成 C:やや不十分である D:不十分である】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない】

領域	重点事項	評価の観点	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善・充実の方策	(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
Ⅰ 学習指導	①「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業実践に向け、「教科研修」の充実を図る。	①授業力向上に係る各教科における組織的な研修、教材・指導方法の共有化を継続的に実施することができたか。	A	①オンライン授業などICTを活用した研修を進めることができた。今後も、授業力向上・授業改善に向けた教科研修や先進校視察を促進していく。	A	A
	②情報活用能力、問題発見・解決能力等の育成のため、ICTを効果的に活用した学習指導を推進する。	②各教科・科目、総合的な探究の時間において、ICTを効果的に活用した学習指導を実践し、共有することができたか。	A	②実践と研修を積み重ねることで、ICTに関する個々の教員のスキルがさらに向上した。今後もICT端末を学びのツールとして利活用し、授業での効果的な活用を促進していく。		
	③新学習指導要領を踏まえた教育課程の実施に向け、観点別評価を実践し、評価と指導の一体化を進める。	③「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に基づく観点別評価を適切に実施することができたか。	A	③校内研修及び他校との情報共有を不断に行うことができた。今後も評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価しながら、指導と評価の一体化を図っていく。		
	学校関係者の意見	・今後のICT端末の授業等での活用についての具体的な取組に期待する。 ・校内研修や他校との情報共有をどう評価へつなげていくか。				
Ⅱ 生徒指導	①生徒の自治的、創造的な活動を通して、社会の一員としての自覚を促し、自主的・自律的な態度の育成を図る。	①生徒自ら考えさせ、生徒の自主性を最大限に生かした生徒会活動や部活動を推進することができたか。	A	①自主自律の精神のもと、生徒による自治的・創造的な活動を通して生徒会活動や部活動を推進することができた。	A	A
	②自他の生命を大切にするとともに、他者を尊重し、「いじめは絶対に許されない」という意識と態度を育成する。	②各種会議、いじめ防止委員会等での定期的な情報共有により、積極的に生徒の状況把握に努め、迅速かつ組織的な対応を図ることができたか。	A	②生徒間のトラブルに組織的に対応し、解決を図ることができた。日ごろから生徒の様子を気にかけ、生徒の困り感の早期発見、早期対応を心がける。		
	③情報モラルを身に付けさせる指導を適切に行い、情報社会に主体的に関わる態度を育成する。	③情報モラルに関するH/R指導、講演会、各種資料を活用した啓発活動、教員・保護者対象の研修等を適切に実施できたか。	A	③ICT活用の場面で必然的に増えたが、使用制限を過度に設けることなく、基礎的な情報モラル・スキルを身に付けさせることができた。		
	学校関係者の意見					
Ⅲ 進路指導	①新たな進路情報の収集・発信、進路に関わる体験活動、相談活動等を適切に進め、ガイダンスの機能の充実を図る。	①進路セミナー・ガイダンス等の計画的な実施を通して、生徒・保護者・教員に対して有効な進路情報の発信・提供を行うことができたか。	A	①ICTの活用頻度が高まり、計画した活動をすべて行うことができ、理解が一層深まった。	A	A
	②自己の在り方生き方や社会情勢について深く考え、将来、社会の一員として貢献していくことを自覚し、主体的に進路を選択する能力を育成する。	②学問研究・自らの振り返りや六華ゼミ・出前講義など外部教育力を活用した取組を活発かつ効果的に実施できたか。	A	②進路講演会や六華ゼミなどを通して将来像などがイメージでき、キャリア教育を効果的に進めることができた。次年度も外部人材を活用し、主体的なキャリア育成に努める。		
	③進路シラバスに基づく系統的な進路指導を通して、自主的・協働的な学習態度を養い、思考力・判断力・表現力を高め、進路実現に必要な能力を育成する。	③進路指導年間計画による進路学習等や「総合的な探究の時間」での探究的な学習プログラムに基づいた取組が効果的に実施できたか。	A	③年間計画に基づき、柔軟に対応し予定通り実施できた。総合的な探究の時間ではチームを組んで、主体性や協働性を磨くことができた。		
	学校関係者の意見					
Ⅳ 健康・安全指導	①生徒の多様な実態や一人一人が抱える課題を把握し、迅速かつ組織的に対応できるよう教育相談体制の充実を図る。	①心の悩みを抱えた生徒の状況や対応の仕方について、教員間で共有し、保護者・SC、SSW、専門機関等との連携を進め、適切な援助ができたか。	A	①多様化する生徒の状況に、保護者、SCなどの専門機関と連携し、生徒、保護者の困り感を把握し、心情に寄り添った対応ができている。今後も情報共有を密に行い、迅速な組織対応で、早期発見・早期対応をしていく。	A	A
	②自ら心身の健康保持増進及び感染予防を積極的に図り、健康で活力ある生活を送ることのできる資質・能力を育成する。	②ICTを活用するなど生徒の心身の健康状態を的確に把握し、生徒一人一人の特性等に応じた支援を適切に行うことができたか。	A	②保健相談部を中心に組織的に生徒の健康状態を共有し、感染症等に対して適切な対応を行うことができている。		
	③日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解させ、生涯を通じて安全な生活を送ることのできる資質・能力を育成する。	③交通安全、防災及び防災に関わる取組を通して、日常の様々な危険について自ら判断し、自他の安全に配慮した適切な行動をとることができたか。	A	③昨年に続きスタントマンによる交通安全指導を行った。また、防災・防災指導を行うことができ、生徒の危機意識を高められた。		
	学校関係者の意見					
Ⅴ 働き方改革	①ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の視点を取り入れ、勤務時間を意識した働き方を推進する。		B	出退勤システムにおいて、データをフィードバックし、個々の気付きを促進し、勤務時間を意識した働き方が進んできている。	A	A
	②計画された部活動休養日等を完全実施して、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮する。		A	適切な休養が必要であるという意識が、増えている。今後も適切に休養を取り入れ、生徒の心身の健康に配慮した活動に努める。		
	学校関係者の意見					